



今回は、ローン仮審査の申込みを終え・・・というところまででした。

「それでローンは通りそうなの？」  
社長も買主のローンが気になるようです。

「自己資金も多いし特に懸念するような点はありません。心配ないと思いますよ」

「そうかよかった。待てば海路の日和ありというけれど、ここまで我慢してきた甲斐があったよ」

えっ、我慢、どこが我慢なの？ 広告を一度打っただけであとは買い手が現れるまでじっと待っていた社長・・・

自分に優しいのは成長を妨げるだけ。人柄はいいけれど仕事に対する考え方には違和感を感じます。

審査結果が出次第、報告することを約束し、事務所を出ると、さっきまで晴れていた空はいつの間にか黒い雲が広がり遠くでは雷鳴が響いています。

この分では一雨来そうです。慌てて駐車場まで走り車に乗り込むと、案の定、暗い空から大粒の雨が降ってきました。

やれやれなんとか濡れずに済んだとホッとしていると、さっき別れたばかりの社長から電話。

「契約書と重要事項説明書はこっちで作るけど、物件調査

はそっちでやってくれないか」

今回のように売主側、買主側それぞれに仲介業者が入る場合(共同仲介)、物件調査や重要事項説明書の説明は関与する仲介業者が連帯して責任を負うことになります。

従って、私が買主側業者として物件調査をするのは当然のことですが、売主側業者も同様に調査義務があります。

私は私、社長は社長で調査をして欲しいと言うと「固いなあ。わかったわかった、時間があつたらな」と気が進まない様子。知識も経験も豊富なのに何を考えているのかよくわかりません。

翌日、まだローンの結果は出ていませんが、所轄官庁に調査に出掛けることにしました。

夕方、一通り調査を終え事務所で整理していると銀行から連絡が入りました。

さすがベテランの担当者、動きが早いと感心していると「昨日申込みいただいた件ですが、残念ながら審査が通りませんでした」

「えっどうして？ なにか問題でもあったの？」  
理由を聞いても「私にもわかりません」とつれない返事。

いったいこのお客様に何があったのでしょうか。 続く

## 編集後記

### みちのく紀行 その2



ここは盛岡と宮古の間、ぐらぐらでしようか、山あいにある道の駅は、夏休み前のせいか訪れる人も少なくひっそりしていました。エンジンを止め車外に出ると七月とは思えない爽やかな風が吹いています。

縮こまった体を思いっきり伸ばし深呼吸をします。

ふと山の方に目をやると、青々とした木々の葉が風にゆれてざわめいています。

あゝ岩手で吹く風のなんと清々しいことよ・・・

なんでもない光景も旅に出るとこども感動するものでしょうか。自販機で冷たいお茶を二本買いベンチによっこらしょと腰を下ろします。

冷えたお茶で渴いた喉を潤し、体も心もリフレッシュ！ 浄土ヶ浜に向かつて再び出発です。

相変わらず外の風景は変わり映えしませんが、この日のために用意したBGMのおかげで単調なドライブも苦になりません。

一時間半くらい走ったでしょうか、宮古まであと一五キロの道路看板が目に入りました。

小岩井牧場を出てかれこれ三時間半、ようやく目的地が近づいてきました。

それにしても、小岩井農場から始まった旅は、三陸海岸、盛岡市、散策、田沢湖、武家屋敷で有名な秋田県角館、男鹿半島、最後は青森までひとつ走りとまるでスタンブラリーのような旅ですが、車での移動は知らない風景が見られるのも大きな楽しみです。

「船に間に合う？」

目的地まであと少しと知った妻が元気を取り戻したようです。

浄土ヶ浜遊覧船は海岸からは見ることができない切り立った断崖を巡り、船に寄ってくるウミネコに手で餌やりができるそう。鳥好きでなくても興味をそそられます。

しかし・・・でした。到着したそのとき、私たちの目に入ったのは無情にも出航した船が海の上をゆっくり走り去っていく後姿でした。

観光船はあきらめ浜に降りる道を探していると、地元ガイドの方で「どうか中年の男性が「歩く」と五分以上かかるからバスに乗ったほうがいいよ」と教えてくれます。

健脚な人なら一五分はなんでもない距離ですが、足腰ガタガタの私たちには修行のような距離です。教えられたバス乗り場待っているとほとんどバスがやってきました。

乗客は私たち二人だけですが若いガイドさんは手を抜くことなく地名の由来や歴史を解説してくれます。

「撮影ポイントでバスを停めますからカメラをご用意してください」

「うわあ、見てみてえ。きれいよ」

妻のその声に窓の方を見ると、一面真白な玉石に覆われた浜辺、青く透き通った海から突き出た白い岩、自然が作り出した幻想的な風景に思わずため息が出ます。

「来てよかったな」「うん」

ほどなくして浜に到着。砂浜に打ち寄せる波の音はこのほか小さくやがて静寂があたりを包んでいきます。

そろそろ今夜の宿に向かうことにします。